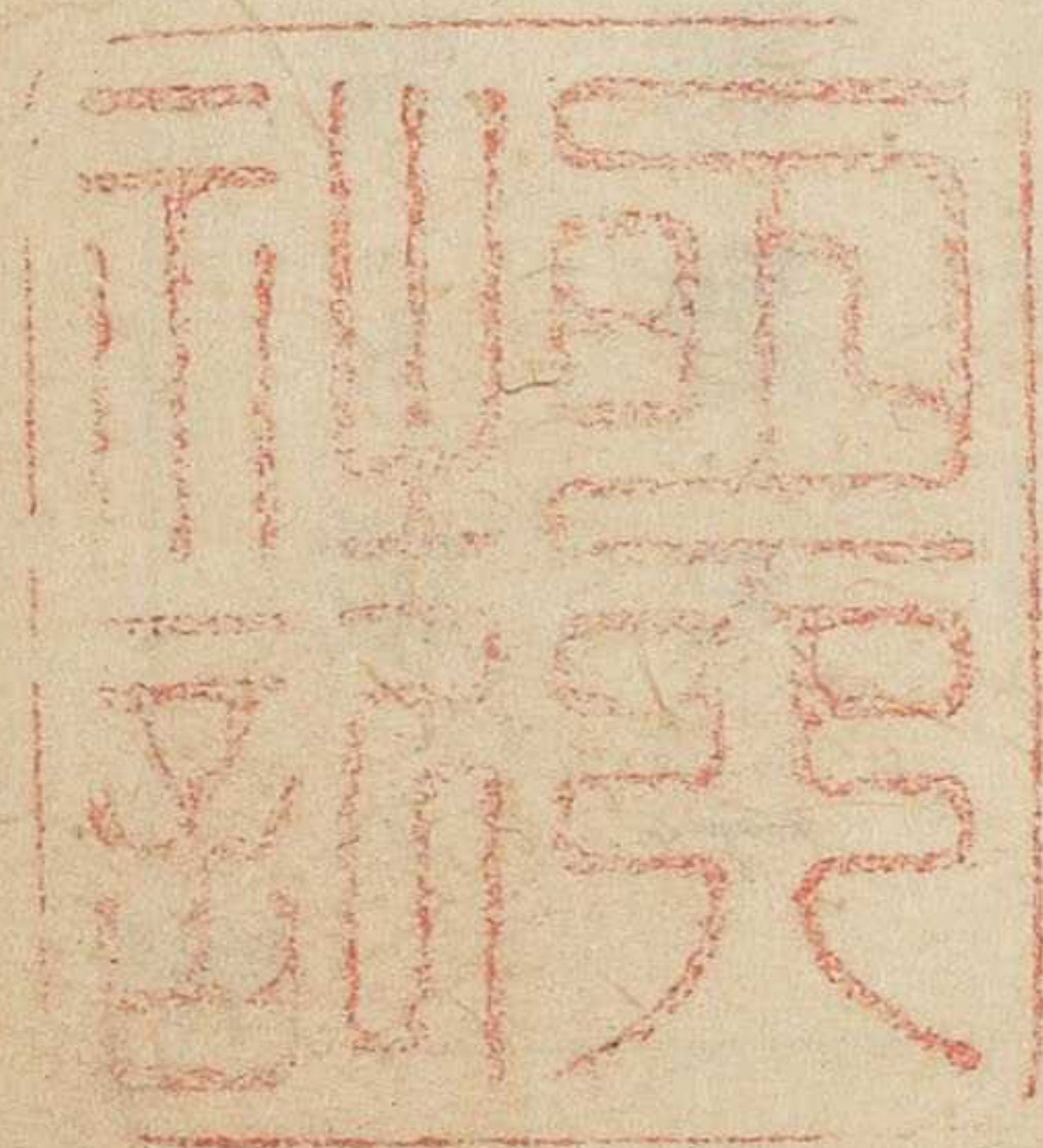


一妻妾論

一民選議院變則論

明六雜誌

第二十七號



頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖_モ邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第二十七號明治八年二月刊行

○妻妾論五

森 有禮

從來我邦ニテ妻ト云ヒ妾ト云ヒ稱呼ヲ異ニスルハ其初メ嫁スルノ時公然タル媒妁ニ頼ルト否ラサルトニ係ルト云フト雖法律ノ認ル處共ニ等シキヲ以テ之ヲ視レハ其間聊差異アルトナキニ似タリ然シテ其稱呼ノ同不同ヲ此彼ト論スルハ固ヨリ要トスル處ニ非ス抑予ノ此事ニ就テ鄙見ヲ述ヘ屢社評ヲ乞フニ至ルハ特ニ其禮ノ不良ニシテ頗ル改正スヘキ者アルヲ覺ルヨリ發シ來ルナリ今又茲ニ外國ニ行ハル、處ノ婚姻法ヲ畧參考シテ我邦將來婚姻ノ律法ヲ設ルノ階梯ニ供セント欲シ拙案ヲ條列シテ恭ク諸君ノ高議ヲ仰ク

婚姻律案

第一章

婚姻契約

第一條

婚姻ハ之ヲ爲スニ適シタル人雙方共ニ同意承諾スルヲ要ス而シテ之ヲ爲スニハ相當ノ法式ヲ行ハサルベカラズ且雙方互ニ夫妻タルノ權利義務ヲ豫メ辨セサルヘカラズ

第二條

夫妻ノ間ニ存スル處ノ權利義務ハ概テ從來ノ慣習ニ因ルヘシト雖婚姻ヲ行フノ時雙方商議ノ上書面ニテ約シタル者アルニ於テハ專ラ其約書ノ旨ニ從フヘシ

第三條

廿五歳以上ノ男廿歳以上ノ女ニシテ外ニ國法ノ制抑スル事故アルニ非レハ各自隨意ニ婚姻ノ約ヲ爲シ且ツ之ヲ行フヲ得ヘシ

第四條

婚姻ヲ爲スヘキ雙方ノ内何レニテモ年齢不足ナルカ病身ナルカ或ハ詐誘又威力ニ由テ約シタル處ノ婚姻ハ皆廢止スルヲ得ヘシ

第五條

各等親ノ祖父母父母ト子孫ノ間同胞ノ間伯叔父母ト甥姪ノ間ノ婚姻ハ總テ倫理ニ戻ルトス故ニ是等ノ間ニハ最初ヨリ婚姻ヲ約シ且行フ
トナ得ヘカラス

第六條

雙方尙ホ存命ノ間ニ夫妻ノ内何レニテモ他人ト再婚姻ヲ約シ成ス
ハ左ノ箇條ニ係ルノ外ハ倫理ヲ紊ルトス故ニ最初ヨリ之ヲ爲スナ得
ベカラズ

第一 前婚姻ノ既ニ離絶シタル者

第二 前夫若シクハ前妻五ケ年間引續キ不在ニシテ存生ノ分明ナ
ラザル時

第七條

婚姻ヲ爲スベキ雙方ノ内何レニテモ其相手ノ不良ノ身行アルヲ知ラ

ズシテ爲シタル處ノ婚姻約ハ必守ルヘキ者ト強ルヲ得ヘカヲズ且ツ
婚姻既ニ整タルモ若シ雙方ノ内何レニテモ他人へ親密シテ情ヲ通ス
ルカ或ハ堪ヘ難キ程ニ不禮ノ取扱ヲ被ル時ハ官へ訴出テ相當ノ償金
ヲ取り且ツ其契縁ヲ絶ツトヲ得ベシ其償金ノ高ハ相手ノ所有物貨ノ
總價三分二ニ過ギザルヘシ

第八條

婚姻ヲ爲スニハ必ラス證人ヲ立テ官ノ公認ヲ願フヘシ而シテ其認狀
ヲ得ルニハ書面ヲ以テ左ノ箇條ヲ申出ルヲ要ス

第一 婚姻ヲ爲スヘキ雙方ノ願意其共欲ニ出テ相互ノ承諾間違ナ
キヲ

第二 雙方ノ屬族姓名并ニ住所

第三 雙方ノ年齢婚姻ニ適シタル事但シ男廿五歳未滿女廿歳未滿
ナル時ハ其父母若クハ後見人ノ許狀アルヘシ

第九條

公認狀ノ願ハ何地ニテモ婚姻ヲ行ヒタキ所ニテ其地方ノ公廳婚姻事務掛ノ官(區長之ヲ兼ヘシ)へ出スベシ

第十條

公認狀ヲ渡スニハ婚姻事務官其目前ニテ願人雙方并ニ其證人ヲシテ誓ハシメ而シテ其事實ヲ認狀中ニ記入シテ自ラ其官職姓名ヲ之ニ附スベシ其狀ハ三通ヲ作り公廳ニ一通ヲ留メ願人雙方へ一通ツ、渡スベシ

離縁律案ハ次號ニ讓ル

○民選議院變則論 一月十六日演說

阪谷 素

前オキハ無用ノ一ナガラ私シ初テノ一デゴザリマスカラ申シマス私ハ阪谷素ト申シマスガ色ノ黒イ正直ナ鈍物デゴザリマス漢書トテモ少々カギリマシタバカリ況テ洋書ハ少シモ讀マセズ唯々翻譯ノ中ヲ

百分一ホド讀又此社諸先生ノ御話シテ時々承リマス位ノ義齒ハ壯年ノ頃ヨリ痛ミツメテ無ナリ言モ明白ニ申シ難クゴザリマスガ和漢歐米風土ハ異ヒマスモ道理ニ二ツハ御坐リマセヌト皆様ノ御論ガ承リタキト又稽古ノ爲ト存シマシテ面ノ皮アツクモ御聽チ願ヒマスカラ後ニテ十分御論駁チ下サレマセ但シ洋書ハ讀マセヌカラ語ノマワリ違ヒ偏コト交リハ御宥恕下サレマセ

サテ私ノ身分デ申シマスルハ不相應ナリデ御坐リマスガ國ノ爲ト存シマスルハマンザラ義務デナイデモ御坐リマセズ第一目的ヲ立ル爲メ諸先生ノ御論チ承リ度ヨリ申シマス主意トスル所當時流行ノ民選議院說チ實地ニ行フニハ學則ニ正則變則アル如ク我國ニ於テハ洋學モ變則ヨリ開ケマシタリケデ官選議院ト申ス變則ヨリ次第ニ開ク可キト存シマスル筋チ述マス

サテ何事モ總テ實地ニ仕上ルニハ本カラ推シマセヌト土臺ガ立マセ

又カラ折角ノ骨折モ用ニ立マセ又先大ナルハ山川小ナルハ一草一本
何レモ一ツ一ツ異ナル如ク國體風習ガ異ヒマスルユヘ歐米ノ民選議
院ノ仕形ヲ我國ニ直ニ持込ントスルハ所謂デタタシユシノ風ニナリ
テ他人ノ足ノ寸ヲ以テ我靴ヲ作ルト同シコナリ却テ國ヲ傷メ崩ス
コニナリマス我國ノ外國ト異ヒマスル大ナル者ハ第一ニ立君ト共和
ニテ其立君モ亦外ト異ヒマス天子様ノコハトカク申サヌガ善ト申ス
人モ御坐リマスガツレハイシユンダクシユン風ノ心得違ユテ山モ川モ一
ツニスルコナリ却テテダクシユンコナリ今日外國ト分別ガ立マセ
ヌカラ萬事ノ目的ヲ立ル爲申サデナリマセヌト申シテモ立君モ共和
モ皆自然ニ出來タ者デ英國ノ山川トアメリカノ山川ト形ノ異ナル如
キ者ユヘ我が顔デ人ノ顔ヲ惡ク申シタリ似セタリスルハ皆間違デ御
坐リマス歐羅巴中ニ自立選立世襲アリ世襲中ニ氏族數々變ル風習アリ
皆其國々自然ノ體ト申スモノ米國瑞士ナドハ全體君ノ無キ國ユヘ

暫時デモ英國シヤノ佛國初世ナポレオンナドノ君ニ似タ者ノアリマ
 シタハ間違デ御坐リマシヤウ佛郎察西班牙今ノ所マダホンギマリデ
 ハ御坐リマセンガ其國勢ヨリ推スト共和ニナルガ當リマヘラシク思
 ハレマス我國ノ如キハ立君ト申テモ君ヲ立ルト申スヨリハ立ツテ居
 君トモ云フベキ義ニテ曲馬デ人形ノ首ヲ首ヤ首ヤト云テ賣テアルク
 理窟ト異ヒ人ノ頭ノ生レナガラ付テ居ル様ニ國ノ初リカラ一筋デ御
 坐リマシテ有難ト申ト高天原クサクナリマスガ左様デナク實地ニ付
 テ相違ハ御坐リマセン然ルニ人ハ生レナカラ獨リ貴キト云フ理ハナ
 イ又天理自然ニ出來タ身體ゴツトコソ有リ難ケレ天子ニ思ハゴザラ
 ヌ共和ガ天道シヤ人理シヤ共和デナクテハ膽力ハ張ラレヌト我マ、
 ナルパツシヨシヨリ説テ付子ハ眞ニ米國ヤ歐羅巴ヲ知ラズト云ハレ
 ントノ小キ見識ヨリ何カ天子ヲ邪魔ナ様ニ申スト共和ノ大先生タル
 米瑞諸賢ノ人情世態ヲ大切ニセラレ又選立ノ君ハ世襲ヨリ大害アリ

ナド己ノ跡ニ偏セズ公平ニ論ゼラレシニ背キテ偏理偏跡ノ説トナリ
眞ノ天道人理ニ悖リマス此マア小キ國テ其様ナ説カ廣ガリ昔ヨリ固
結ノ人心ヲ解キ放チ大輕薄ノ風ヲ興シタテ丸デバルバリニナリマ
ス又其様ナ黨ガ起リパツシヨシニ仕立ノ自主自由ヲヤリマスト固結ノ
人心ヲ激シ大喧嘩大合戦トナリ其費ハ皆借金ノ上ニ借金トナリ土地
ハ盡ク質物トナリ人民ハ盡ク賣奴同様ニナラテバナリマセン然ル時
ハスターツニモセヨホルクスニモセヨ大切ナルスウエレノ子テート
ハ丸潰レトナリ奴隸習國ガ眞ノ奴隸國ニナリマスコレハイカニ考テ
モ残念千萬七度モ生レ易リ復讎ガシタクハ御座リマセンカ右故逆シマ
ニナツテ考テモ横ニナツテ考テモ此日本ヲ保護スルニハ此皇統ヲ保
護シ奉ラデハナリマセン米瑞ノ名賢ヲ選ビ拔テ議サセタ所ガ此外ハ
ナイト存シマス此ハ固リ百モ御承知ノコナレドモ何チ議致スニモ
御交際ホマギテハシキ時節ユヘ此基本目的ヲ揚ゲルカ大事デ御座

リマノ况テ民選議院ノ如キ開闢以來初テノ事ニハ此意ヲ慥ニフマヘ

テカ、ラスト毫釐ヨリ千里ノ差ヒ日本滅却シマヌ故第一ニ御正シ申

マ

テカ、ラ民選議院ニ申シマノカ皇統ヲ保護スルハ何カ大事

ニ申ス、誠ノ一字其誠ヲ透スハ止ムシヤト申テ棒ノ擧ナ正直バカリ

デハイケマセヌ水ノ卑キニ就テ曲曲ヲシテモ挫ケズ源ヨリ出テ必

ク海ニ人ル類キモノナレドマギラハシキ故正直ノ反對ヲ以テ分

其筋ヲ正スヘキデ御座リマス正直ノ反對ハ諂諛ト申ス姦邪ノ物デ

塵リマス自ラ諂諛ト知テ上ノムチチヨロマカス者ハ匿リ論モナイ

然ルニ正直ト思フテ諂諛ヲヤリマス者カ奴隸習ノ國ニハ多イ昔カラ

膽力偉大ニナラズ愛國ノ情ヲ消耗シ皇統ノ衰ヲ爲スハ皆正直ノ道ニ

反セシ諂諛ヲ致ス奴隸習デ御座リマス西洋ノ千六百六七十年頃ニヤ

佛郎察ノ路^{ルイス}易第十四世カ吾ハ即國家ナリ國家ハ十分不羈無限ノ全權

チ握ル者ト支那ノ昔シ申韓ナド云フ馬鹿學者カ天下チ有テ我マ、チ
セヌハ天下チ吾桎梏ニスルノシヤト申タ同様ナルコト唱テ天子ハ自
分免許ニ我マ、チナサル者トスルト民權ノ代理ニ將門ヤ尊氏が出カ
ケマス今日以後ハマダ、何が出ルカ恐ロシ井事デ御坐リマスソコ
デタトヒ天下ハ天子ノ天下ダト申シテモ人ノモノナラ御勝手ダガ御
自分様ノ物ニ我マ、ハ出來マセヌ況テ天下ハ天ノ物ニテ天ノ子タル
御代理ガ天道人理ニ負キシ我マ、リベルチーハ出來マセヌ御代理ダ
ル御職分義務ハ何ニカナレバ民チ保護スル而已保護筋カ少シデモ差
フテ御壓ノ氣味ガアルト御職分義務ハ立ズシテ監守盜ニナリマス故
ニ其監守盜ニ御陷リナクシテ御職分ノ立様ニ人民ノプロテクシヨ
チ以テ皇統ノフロテクシヨントスルカ正直ニテ之ニ反シ己モ亦監守
盜ニナルカ諂諛デ御坐リマス諂諛ハヒ非キノヒキコロバシニテ皇統
チ弱ハメルカ日本チ眞ノ奴隸國ニスル稽古チスルト申スモノデ并テ

自分ノ保護ヲツブシ自滅スル馬鹿者デ御坐リマス譬ハ大切ナ病人カ
吾カ體ハ我モノ故我リベルチーニスルトテ不養生致スチ醫者ヤ妻子
其カ病人ノ勝手ニサセルガカイノドナリ交際ノ道ナリト思フ様ナハ
ルハリーデ開化ノ道ヤ醫者タリ妻子タル者ノ義務ガ立マスカ時ノ盛
衰ハ姑ク之ヲ舍キマシテ今日ニ當リテハ上ニモ萬機公論ニ決スベシ
ノ詔リ出シ位ニテ日々月々人民ノリベルチーチ御勸アリテ君ノ權理
義務ハ如此人民ノ權理義務ハ如此政府官員ノポリチツクハ如此スベ
ク歐ハ如此米ハ如此ト明白ニ分リ人民中少シク學問才智アルモノハ
十ニ八九シペリゼーシヨシノ大意ヲ知リシ時ニ當リ政府ニ於テ秘密
ヲ立テ身カマヘシテ政體ノ大本ヲ舍テ節目チカザレバ綱目合ズ大本
ニ於テオルトトイキシチ以テ人民保護トスルハ病人ノ不養生同ダシデ
御坐リマス皇統ノ不養生ハ人民ノ不養生ナリ人民ノ不養生ハ皇統ノ
不養生ユヘ信實ニ誠直ナルカイノドニ於ハトニカク暫時モサシオク

マシキデ御坐リマス租税民法外人旅行雜居裁判法皇統繼嗣ノ定則神
田君ノ嘆息ナサル金貨ノ義皆至急ノコトデ御坐リマスカ政體明カナラ
ズ大本立ズ上ヨリ秘密ヲ以テ壓抑シテ定ムルコトハ何程良法デモ有名
有志ノ者サヘ其ワケヲ知ラズ暗中ノ光リ物ノ如ク意外ノ布告ニビツ
クリシテ惡法同様億兆疑ヒ怨ミ信ズルコトナク人心雜亂シテ利ハ盡ク
外人ニ奪レ後ニハ怒テ亂トナル外ハ御坐リマセン最早今日ニ至リテ
ハ會議公論人民代議ノ者ニ於テ議定シ闔國一同其筋ヲ吞込上モ下モ
國家ノコト皆我爲我任タルヲ熟知セシメ何様ノ權力アル者デモ定リシ
法ヲ勝手ニ動シ換ルコトノナラヌスターツニ致サデハ内外ノ大事定リ
マセン殊ニ精神膽力スベリツトハ擔當ニ生ズル者ニテ學問ヨリモ擔當ノ力ハ財レスポンシビリチ
貨ニ發シ金トイヘハ愚民ニモ能ク分ル者故議院ノ主トスル租税費用
ニ於テ君民公共タルノ義ヲ明ニ致シマスト是マデ奴隸習ニナレシ
者モコレデハ黙ツテオラレヌトスベリツトヲ興シマスカ萬國中財貨ニ

使ハレヌ者ハ御座リマセン其權カ上ニ在ルト下ノ者ハ皆奴隸習ニナ
リヘイヘイハイハイデ正直ハスタリ諂諛トナル諂諛デハツマリ亂ノ
外何カ出キルモノデ御座リマスカ或ハ議院カ興ルト事カハコバヌ今
其說ヲ立ルモノハ不平家ノ諸生習氣ダノ又ハ庶民ハ租稅ヲ出サヌ說
ヲ出スシ士族ハ祿ヲ増ス說華族ハイク久ク祿ヲ減ゼヌ說紛々ト起リ
仕方カナクナルト心配スル人モアリマシヤウカ是ハ愚カ愚カ其様ナ
公道公心ヲ知ラズ三文ノ梅ボシ位ナル根性デイケマヌモノカ議院カ
興ラズ上ノ秘密デ事ヲ爲ス故皆々疑テ理窟モ申セ自分ノ荷物トナリ
テハ公論ノ外ハ世間ニ通りモ申シモナリマセヌ又身勝手ヲ論ズレバ
論ズル程カ道理カ次第ニ明ニナル者デ事ノハカドルハカドラヌハ議
法ノ得失ニ御坐リマヌ千七百年ノ末頃佛國ノ亂ヨリ生シタシマリモ
何モ立ヌ様ナ議法ヲ今時御勸メハ申シマセヌ佛國此時ノ議法ハロカ
ールホルクナド申ス様ナル急進說トモ何トモ立ラレヌトテ御坐リマ

ス試ニ觀マスト昔カラ亂亡ニ至ルノハ皆人ノ論ナハカドラストカ爾
倒ナトカ又ハ不開化ノ愚論トスル故デ御坐リマス民選議院ハ急進黨
ナドトイヤハヤ筆先デ黨ヲ立ルコトヲ誘フ者モ御坐リマスカ私ナドハ
後醍醐天皇建武御中興ノ初ニ萬機公論ニ決スベシトテ議院カラ御取
立ニナリ居マシタラ南北ノ亂モナク尊氏モ閉口シテ幕府ナド申ス様
ナルコトハ絶テ日本ノ開化西洋ニ先ツ位デアラフモノナト存シ少モ御
早イトハ存シマセヌニ急進漸進ハ議院興リシ後處置ノ上ニテ順序
ニ於テ考ヘベキ事ト存シマス且又篤ト考テ見マスト先願認メマシタ
租稅ハ上下公共スベキノ說ノ如ク是マデノ政體デハ救濟賑恤ノ法ハ
皆上ノ大義務トナリ租稅ハ何デモ寡ク取ルベクナラハ食セズ衣ズコ
人民保護ヲハタラタ可キ筋ニナリ今時ニハドフモ合ヒマセヌソレモ
聖君賢相御並ビノ時ハ富強ノ小口カ立マ스가人カ代ルトブテコハシ
マスカラ又後ノ聖賢カ出テモ前代ノツクロ井ニ骨カ折レテ其一代ヲ

終リマシテ破テハ補綴ツグロイスルテハ破リ富強盛大ナル期ハ御坐リマセヌ
 我邦支那ノ早ク開ケナカラ晩ク開ケシ國ニマケルハ全ク此ノ故ト思
 ハレマスソレ故急ニ考テモ緩ニ考ヘテモ早ク民選議院ヲ起スコト御
 勸メ申スカ眞ノ正直ヨリ出デシ愛國ハトリオケストカ忠義ロヤルチニテ皇統人民合一保護
 ノ業ト存シマス

以下次号ニ載ス

稟 白

一代價の毎号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號方先二十冊分御引受の一割引五十冊分の一割半百冊分の一割引にて差上過不足の追て算當の上可申上候

一府下みて御望の方の町所名前御投書次第發兌毎よ配達可仕遠國の府下みて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内の遞送不仕候

東京藥研堀町

賣捌所 報 知 社

明治七年三月

大坂本町四丁目

取次所 河内屋具七

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年